

経営比較分析表（平成29年度決算）

岐阜県 七宗町

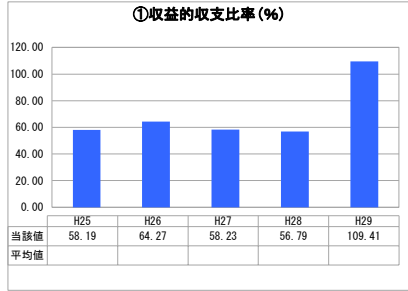
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	33.66	73.61	3,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,919	90.47	43.32
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,306	2.76	473.19

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



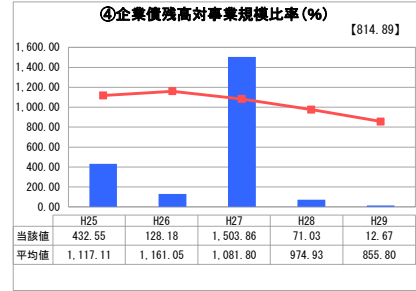
「単年度の収支」



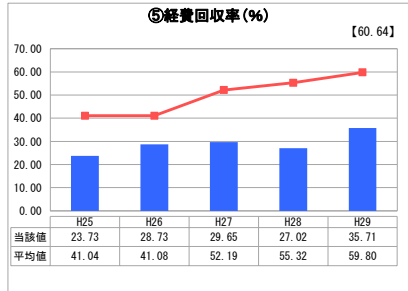
「累積欠損」



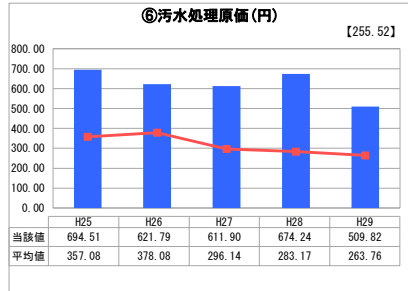
「支払能力」



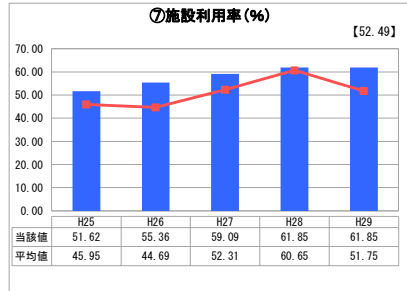
「債務残高」



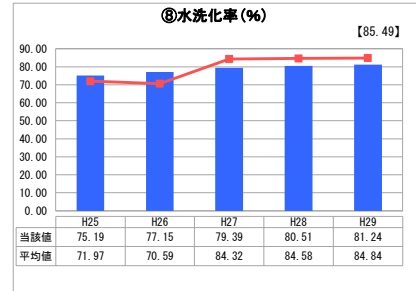
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

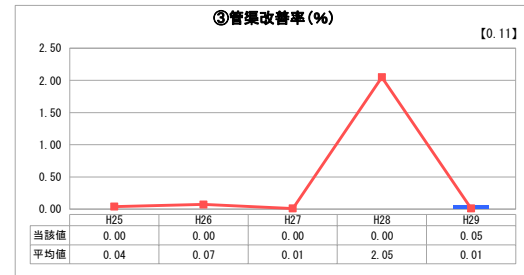
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

農業集落排水事業は、処理区域内集落が点在しているため、各処理施設が4箇所点に点在しています。中山間地域の地形的な要因である土地の高低差や中小河川の多さに伴い、ポンプ管数の増加、真空式放流システムの採用や隣接する家屋間の離間距離などの諸条件から管渠延長の長大化が要因となり汚水処理原価が高い傾向にあります。

なお、収益的収支比率増加の要因としては、繰入金にかかる繰入基準等の精査によるものです。(④企業債残高対事業規模比率のH27年度の当該値について、正しくは「16.23」です。)

今後も、ランニングコストの削減、接続促進、使用料改定など経営改善に向けた取組の継続を目指します。

2. 老朽化の状況について

それぞれの施設により、供用開始からの経過期間が異なるが、老朽化が進みつつあるため、各施設毎の管渠への不明水混入の原因調査を継続して実施することにより、早期発見及び早期対応を図ることとしている。

管渠を含め設備及び施設全体の長寿命化を目指します。

全体総括

事業の健全運営のため、七宗町下水道事業経営戦略を基に、処理施設、管渠及び各設備の更なるランニングコスト削減を図るため、各処理施設の計画的な定期点検と必要な修繕等を適宜実施していきます。

また、今後の人口減少により、使用料収入の減少も想定されるため、未接続世帯の接続促進に努めるとともに、使用料改定も行い健全経営を目指します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。